

碧南市史料 別巻十三 正誤表

ページ・行	誤	正	備考
7・8	明治四十年十月、	明治四十四年十月、	237ページの本文見出しが正しい。
219・7	(塩浜町辺り)	(源氏町)	「源氏の水門」(原文では「源氏の坎」)は、堀川からの逆流を防ぐ水門設備であり、当時の川道では今の源氏町内にあり、大浜村・棚尾村の共同管理であった。
228・10	旧陣屋よりもさらに南方になつてしまいました が、	旧陣屋よりやや北の場所に、	『碧南市医師会史』赤堀清治氏の談に、「場所は、旧碧南税務署の向い側の、もう少し上 ^{カミ} にあった。国道沿いではあったが、建物は道に接して居なかった。(中略)この敷地内に、大浜に赤痢が流行した時、バラツクの仮病棟を建てて、患者を収容した話を聞いた事がある」(原文ママ)とある。 『平和用水史』附録地図によれば、現在の石橋町二丁目地内が該当の場所と思われる。